

薬害根絶は 私たち医療人の願いです

8月24日は薬害根絶の日

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

全国薬害被害者団体連絡協議会は、この日を「薬害根絶デー」とし、毎年、国との交渉を続けています。私たちも、この行動に合わせて薬害根絶を訴えます。

子宮頸がんワクチン被害

ワクチン接種が2010年度から公費助成され、多数の健康被害を発生させました。現在、接種の積極的な勧奨は中止。

接種後、手足のしびれや脱力、けいれんなどの副反応。記憶障害をおこした少女もいます。安全性を検討した委員15人中11人がメーカーから金銭を受け取り、癒着が問題となっています。

サリドマイド被害

サリドマイド剤を飲んだ母親から、四肢の全部あるいは一部が短いなどの奇形をもつ新生児が多数生まれました。被害発生から50年、和解から40年を超えても、新たな健康被害を発生させています。この薬害も、母親や家族にも消せない心の傷を残しています。

今年の薬害根絶デー集会では、原点に立ち返って学習し、今後の対策を考えます。



誓いの碑

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

「誓いの碑」は、薬害被害者団体連絡協議会が、全国の薬害被害者から募った資金で建立された。碑文は、薬害被害者団体連絡協議会が、全国の薬害被害者から募った資金で建立された。

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。